

第16号

豊後大野市農業委員会  
平成29年3月1日発行

# 豊後大野市 農業委員会だより



～松尾・鷺谷振興協議会 あかい屋根体験農場にて、芋ほり大会を開催しました～



今年度を振り返って

豊後大野市農業委員会

会長 後藤 敏生

市民の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

また、平素より農業委員会の業務に關しまして、特段のご高配を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年を見ますと、地震や台風などによる自然災害、大雨からの日照不足等により野菜は品不足から価格の高騰が続き、本年は自然災害のない年でありますよう祈る思いです。

ところで、近年の農業情勢は、国内では高齢化による離農や担い手不足、耕作放棄等による遊休農地の増加が多くみられ、それらの要因として鳥獣被害や価格の低迷、資材の高騰等が挙げられております。また、国際的にもTPP

の大筋合意を受け、多くの農産物の関税撤廃が予想される中に、アメリカ大統領の離脱発言から、今後どのような影響をもたらすか先行き不透明な状況であります。

本市も中山間地域の厳しい状況のなかで、昨年3月に市が将来にわたって「農業を活かす・人を活かす」農業を目指すため、第3次農業振興計画を策定したところですが、農業委員会としましてはこの計画をもとに市の農業振興に寄与していきたいと考えています。

こうしたなか、国は昭和26年の制度発足以来の大改革として、農政の根幹を担う組織や制度を抜本的に見直すため、「農業委員会に関する法律」の改正を行いました。具体的には、これまでの農業委員とは別に農地利用最適化推進委員を新設し、決められた区域の中で、担い手への農地等の集積や集約化、遊休農地の発生防止や解消、新規参入の促進など、農地の最適化を進めていくものです。

本市でも、農業委員の改選が本年の5月に行われ、それ以降新制度へと移行することになりますが、引き続き市と連携を図りながら、地域農業の振興や発展に努力してまいりますので、今後とも市民皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。